



いわて・みやぎ・ふくしま No. 3 便り

2019年
6月28日発行

日本生協連
組合員活動部

6月の「いわて・みやぎ・ふくしま便り」をお送りします。

東日本大震災から8年が経ちました。これからも復興に向けて歩いていく被災地の皆さまに寄り添って、全国から支援活動を行っていきましょう。



通常総代会で思いをつなげて～リボンのモニュメント～



今年の3月11日に内陸の店舗で募金活動と一緒に取り組んだ「リボンのモニュメント」作り。

リボンに「これからも応援します」の思いを込めて、名前やメッセージを記入して針金に結びました。それをつなげ、ツリー型のモニュメントにして、5月に宮古・釜石・けせんの各コープ総代会（地域総代会）と、6月11日の通常総代会で展示し、来場した方に見ていただきました。

沿岸被災地では、「8年経っても、こうやって忘れないでいてくれて安心した」との声が寄せられました。

あわせて総代会会場ロビーでは、復興商品の販売コーナーも設け3団体が販売を行いました。



組合員に15センチ四方の毛糸のモチーフを編んでもらい、ひざ掛けにつなぎあわせました。5688枚のモチーフが237枚のひざ掛けになりました。その写真の展示です。



リボンのモニュメント



生協からの助成金でサロン活動を続けています



いわて生協では、全国のみなさんから寄せられた募金を活用して「いわて生協被災地支援活動助成金」を実施しています。被災地ではまだ支援が必要ですが、資金難から活動を縮小せざるを得ない団体が増えてきたことから、2016年度より「くらし・地域復興応援募金」を活用し、岩手県内で復興支援に取り組む団体へ助成を始めました。この3年間で、31団体へ800万円の助成を行いました。

毎年、通常総代会で助成を受けた団体に活動報告をしていただいておりますが、今回は、陸前高田市の「一般社団法人 ちーむ麻の葉」より、助成金を活用しての災害公営住宅でのサロン活動について報告いただきました。

「チーム麻の葉」は、代表の大和田さんが中心となり、「やんびゃにくらぶ」という名前で、自宅近くに建設された災害公営住宅で月に一度サロン活動を行っています。お年寄りが多いことから警察官を招いての「振り込め詐欺防止」のお話をしてもらったり、バスで遠足に出かけたりもしています。

総代会で報告を聞いた方からは「報告の『被災地だったといえる日が来るまで』という言葉に胸を打たれました。まだ支援が必要なのがありました」「自分の募金が有意義に使われていることがわかり、今後も募金を続けようと改めて思いました」などの感想が寄せられました。



岩手県岩泉町を訪問しました



みやぎ生協では、これまでいただいた支援を少しでもお返しできればと、他の災害被災地への支援にも取り組んでいます。

6月18日、みやぎ生協の理事・職員計5名が岩手県岩泉町を訪問し、2016年の台風10号被害のその後の状況や災害公営住宅の様子、岩泉町社協主催のサロンの様子を視察しました。サロンには15名ほどが参加され、中には「このサロンで笑えるのが楽しみだから」と30分近く歩いてきたという方もいました。できたばかりの災害公営住宅では、1週間前に引っ越してきたという方にお話を伺うことができ、「みなさんのおかげで良いお家に引っ越すことができた。本当に有り難い」と何度も話されていました。

町内の視察では、被災から3年近くが経過しているにも関わらず、移転先が決まらないため解体できず被災当時のままの住宅や、あちこちで護岸工事の様子などを目の当たりにし、今後の支援を考える機会となりました。



(岩泉町内の川治いの様子)

手前の空き地に見える場所も、かつては建物がありました
被災した家は、当時のまま残されていました)



(一人世帯用の災害公営住宅は長屋づくりになっています)



災害被災地支援ボランティアに取り組みました



6月20日、岩泉町のサロンのほか熊本地震などの災害被災地のお茶会へ送る「手作りキット」を作るボランティアに取り組み、22名が参加しました。今回は、これまで参加しているボランティアの方が「牛乳パックで作る小物入れ」キットを発案し、作り方の講師役もボランティアが行いました。材料も参加者が持ち寄ったほか、さまざまな方から提供いただき、互いにアイデアも出し合いながら取り組みました。岩泉町訪問の様子なども紹介し、被災地への思いを馳せたメッセージを添えながら、心をこめて作りました。



(作り方をみんなで確認してからスタート

参加者からも小さなパーツをなくさないようにセットする
アイデアなどが出されていました)



(作り方やメッセージを入れて、完成したキット)



食事調査について組合員のつどいを開きました



コープふくしまでは、日本生協連商品検査センターにご協力をいただき、2011年より福島県内100家庭を対象に、陰膳方式による実際の食事に含まれる放射性物質の測定(食事調査)に取り組んでいます。

2019年度の調査開始にあたり、6月13日(木)に郡山中央公民館、14日(金)にコープふくしまいずみ店組合員ホールで、2018年度に食事調査に参加した組合員と実際に検査に携わった日本生協連商品検査センター職員、今年食事調査に参加を希望する組合員との学習交流会を開きました。

最初に検査センターの職員から、検査センターの概要、放射能のこと、これまでの食事調査の結果などについてお話していただき、その後グループに分かれて話し合いを行いました。

参加した組合員からは、「流通している食べ物は大丈夫とされていますが、まだ不安がぬぐいきれない事もあり、1年に1回勉強会があれば良いと思いました」「放射線の事など、何となくは分かっているつもりでも、今回のお話で、改めて勉強させて頂きました」「今まで地域的に大丈夫だろうとは思っていましたが、調査結果を聞くことによって、より安心することが出来ました」などの感想が寄せられました。

組合員の台所と直接つながっているこの調査は、2018年度までに延べ1,000軒のご家庭にご協力いただきました。つどい終了後には調査キットを持ち帰っていただき、今年の調査が始まりました。



(日本生協連の職員から説明を受ける組合員)



(グループでの話し合いの様子)



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告

～山形県 天童温泉 湯坊いちらく～



開催日 2019/5/11 (土)～12 (日)

保養先 山形県 天童温泉 湯坊いちらく

参加者 12家族 (大人18名/子ども15名) 内スタッフ3名



1日目

・鶴岡市立加茂水族館

福島を予定時刻 8 時に出発し、11 時頃に加茂水族館に到着しました。共立社のスタッフの方々に待機して頂いたため、集合写真を撮影後、スムーズに入場する事ができました。アシカやアザラシの生き生きとした様子を見ることができる「ひれあしの時間」では、皆さんが餌やり体験をすることができました。また、沢山の珍しいくらげについて、説明を聞きながら見学しました。



(参加者の皆さんの集合写真)

・庄内観光物産館にて昼食

昼食時間が 50 分と短いため、混んでいないお店で昼食をとり、皆さん買い物を楽しみました。

・オランダせんべいFACTORYにて工場見学

日本一長い工場で説明を聞きながら、途中ではみたらしだんごの試食があり、展示物も多く、飽きずに見学ができました。味付け体験では 15 種類もの味があり、一人 2 種類決めるのに迷っていたので、待ち時間中にメニューを見てもらい、早めに決めるようにしました。

・湯坊 いちらく宿泊

座敷はテーブル式なので座りやすく、ゆっくりできました。家族紹介では、運動会や部活の活躍など、様々なお話を聞くことができました。時折、拍手が湧くなど、楽しく過ごせました。

2日目

・おかいものキッチン「サンドイッチ」

共立社のコープしろにしセンターのセンター長より、「母の日の缶バッジ」のプレゼントをしたいとの申し入れがあり、希望者のみ写真を撮りました。帰り際にはプレゼントを頂き、とても良い記念になりました。おかいものキッチンでは、グループ毎にオープンサンドだったり、好きな食材を挟んだり、パンの耳でお菓子を作ったりと工夫をして楽しみました。また、その内容を発表し、皆さんで美味しくいただきました。



(食材を選ぶ子どもたち)



(作ったサンドイッチを味わう様子)



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告

～猪苗代町 リゾート・インぼなり～



開催日 2019/5/25 (土)～26 (日)

保養先 猪苗代町 リゾート・インぼなり

参加者 7家族 (大人 13名/子ども 15名) 内スタッフ 4名

1日目

・リゾート・インぼなり

郡山から4家族(内1家族はいわきから)、福島から3家族の参加で曇ひとつない快晴のなか、元気に出発しました。今回もリピーターが多く、初参加は1家族だけでした。

14時過ぎにぼなりに到着し、15時からミニ運動会(じゃんけんゲーム)を開催、その後フリータイムでそれぞれ遊んでもらいました。時期からすると、涼しいはずの「ぼなり」なのに早くもセミが鳴いており、皆さん驚いていました。

夕食交流会もスムーズに運び、メニューの「カレーライス」「ミニラーメン」「かぼちゃスープ」を美味しく頂きました。



(ミニ運動会を楽しむ様子)



(夕食交流会の様子)

2日目

・カワセミ水族館、道の駅 いなわしろ

朝食をみんなで美味しく頂き、9時20分に予定通り「ぼなり」を出発し、「カワセミ水族館」へ向かいました。10時からのカワウソの餌やりに間に合い、全員で見ることができました。にほんカワウソは絶滅したため、水族館にはユーラシアカワウソの親子1組だけでした。餌は、ニジマスや鶏肉をあげていました。

館内は他にも見どころが多くあり、水族館の名前にある「カワセミ」がいたり、「木の遊び場」があったりと、子供たちはとても満足していました。

帰り道には「道の駅 いなわしろ」でトイレ休憩とお買い物をして帰路に着きました。



(水族館の前での集合写真)



(カワウソの餌やりの様子)

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬

